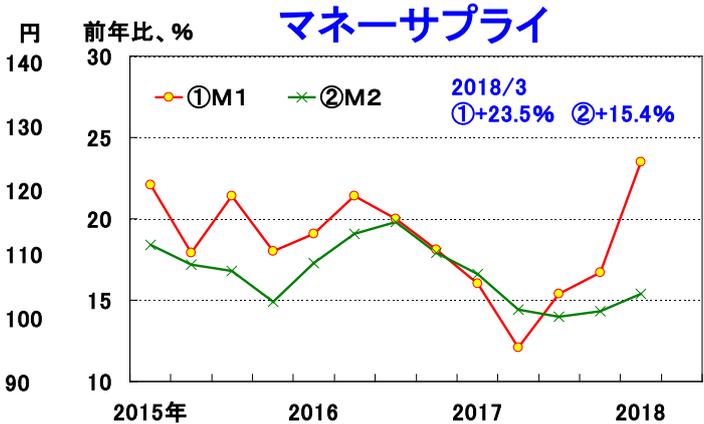
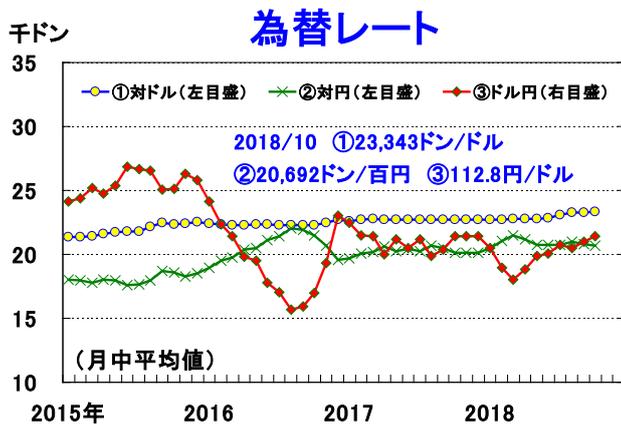
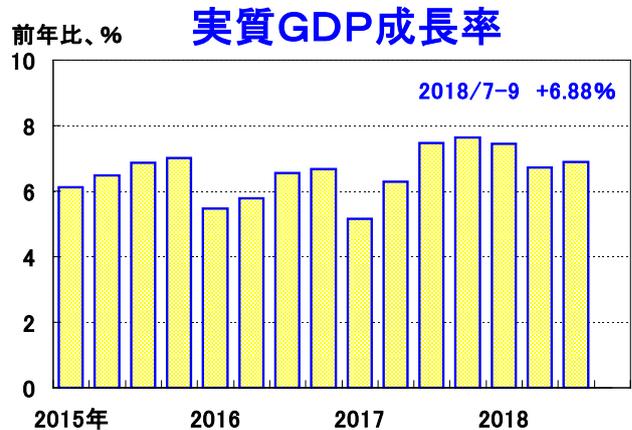
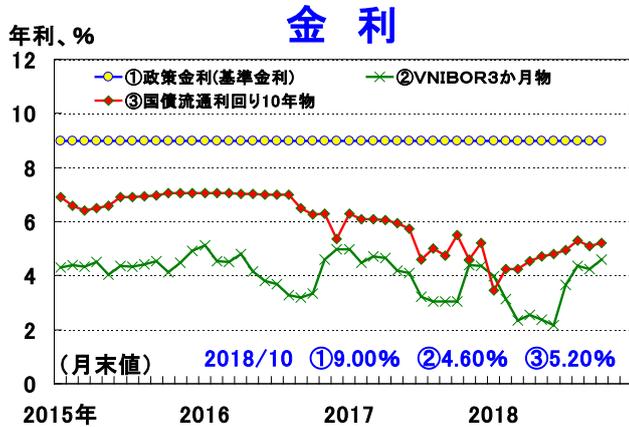


グラフで見るベトナム経済 2018年11月号(No. 106)

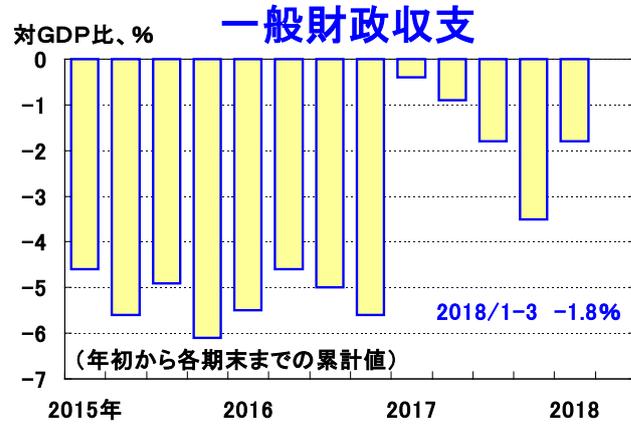
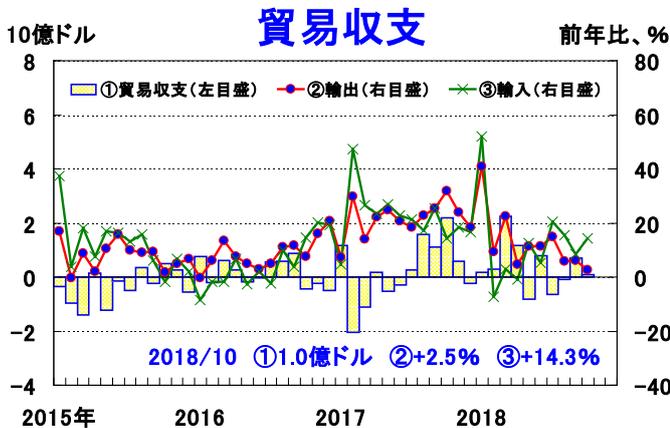
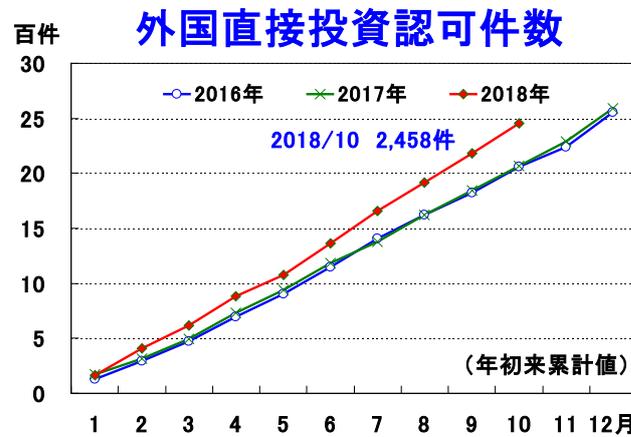
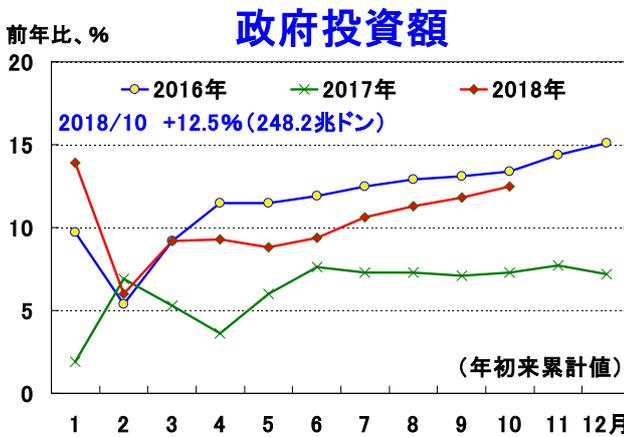
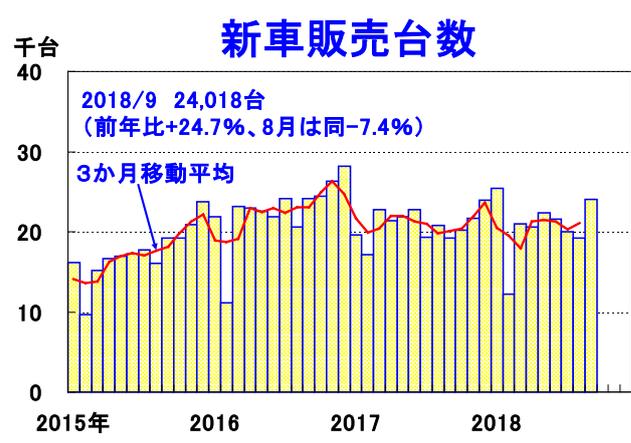
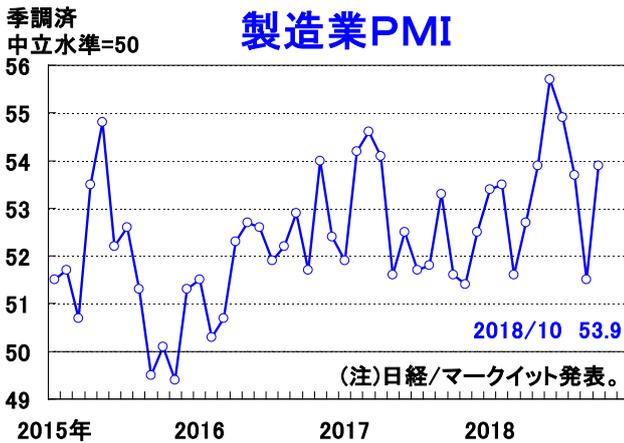
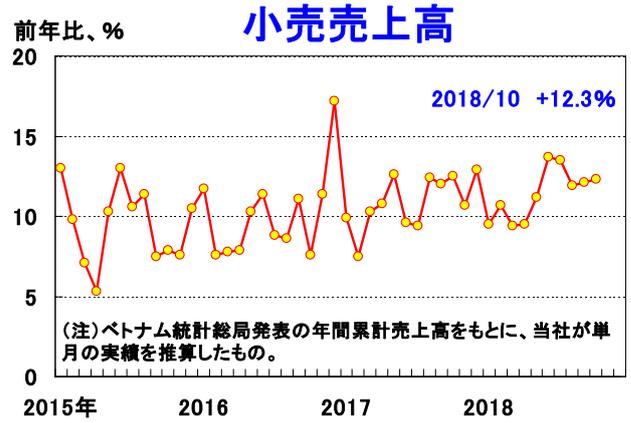
ベトナム景気は、企業部門の一部に弱含みの動きがみられるが、緩やかな回復基調にある。まず企業部門では、10月の輸出は前年比+2.5%と2016年1月以来の低い伸びとなり、同月の鉱工業生産も同+7.7%と3か月連続で減速した。ただ10月の製造業PMIは53.9(前月は51.5)と約3年連続で中立水準の50を上回り、製造業の景況感は回復基調で推移している。一方、家計部門をみると、9月の新車販売台数は前年比+24.7%と8か月ぶりの高い伸びとなり、また10月の小売売上高も同+12.3%と6か月連続で2桁の伸びを維持している。



【今月のトピック: 直接投資は実行額が増加したものの、登録認可額は減少】 2018年1~10月累計の海外からのベトナムへの直接投資額は実行額が151億ドル、前年比+6.3%と増加した。2017年の実行額は過去最高の175億ドルであった。2018年に関して、政府関係者は180億ドルに届くとみている。一方、10月までの累計の登録認可額は279億ドル、前年比-1.2%と前年を下回った。登録認可額トップは日本の76億ドル、次いで韓国の65億ドルとなっている。当面の直接投資に関しては、大規模法人減税の影響により米国の直接投資が先細りとなることが懸念されている。

(出所) ベトナム国家銀行 (SBV)、ベトナム統計総局 (GSO)、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) ベトナム統計総局 (GSO)、ベトナム自動車工業会、ベトナム国家銀行 (SBV)、IMF、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。